

CSR活動の目標と取り組み状況

2010年度の取り組み状況

シチズングループとして2010年度は1)海外でのCSR活動の強化、2)災害BCP(事業継続計画)の策定、3)購買面で

のCSR基準の導入、4)社会貢献活動の推進を優先課題としました。この優先課題をもとに各社ごとに「CSR活動目標」を設定し展開しています。海外での活動と事業継続計画に関わる取り組みの一例を紹介します。

2010年度CSR活動目標・実績と今後の課題(一部抜粋)

A:目標どおり、達成できた B:ほぼ達成できた C:まだ課題が残る D:実施することができなかった

企業行動憲章	CSR活動目標	会社名	実績	評価	今後の取り組み・課題
第1条 製品の安全・品質	BCP(事業継続計画)への適切な対応 ●モデル事業部での先行計画の実施 ●全社対応の中期計画策定	シチズンセイミツ	●モデル事業部では、取引先からの要望事項に対応し、主にソフト面での活動を展開した。 ●全社対応の「事業継続計画」の立案と提案については、マニュアル・手順書の作成を進めた。 ●次年度の本格運用に向けての中期計画を策定した。	A	●モデル事業部の活動を全社に展開。 ●次年度の投資計画に発電機を追加。 ●震災対応の課題に基づき事業計画書・マニュアル・手順書を改訂。
第4条 環境管理	工場の省エネルギー化 ●LED照明化率50%目標	シチズン電子中国子会社	玄関・ロビー・見学者用廊下・応接室・会議室・オフィスにLED照明器具設置。新工場全体の約20%相当。	C	シチズン電子本社が開発したLED照明器具が入荷次第、増設。
第8条 海外現地への貢献	中国工場でCSR活動に取り組み、地域に愛される企業をめざす ●従業員の安全 ●法律の遵守 ●環境改善の取り組み	シチズン東北中国子会社	●地元区政府の「100万従業員素質教育活動」に応じて、安全作業に重点置いて教育し、現場ケガ率は18%低減した。 ●「清潔生産」活動は今後も継続する。 ●地元市政府の「鶴城減産」の活動で表彰された(奨励金)。	A	●安全:生産現場の隠れた危険を排除。 ●福祉:「住宅積立金」制度導入。 ●環境:「清潔生産活動」を継続(研磨埃の排出抑制)。 ●生産向上・品質向上活動(顧客の信頼性向上)。
第8条 海外現地への貢献	法規制、制度改革への対応 ●環境規制への対応(排水、大気等) ●輸出入(貿易管理)規制への対応 ●制度リスクへの対応	シチズンセイミツ中国子会社	●環境規制:排水・大気規制、環境指標の測定に対応。通常排水の管理、ゼロ排水の対応。 ●輸出入規制:バランス管理がやや不十分。 ●制度リスク:労働保険の加入は行政と相談し展開。	B	●法令・制度対応へのさらなるレベルアップ。

2010年度の総括と今後の課題

2010年度は、4つの優先課題に重点を置いて取り組みました。2011年度は引き続きグループ全体の底上げをしなが

ら着実に成果につなげたいと考えています。

社内通報制度

シチズングループでは、法令違反ないし不正行為による不祥事の未然防止および早期発見、自浄作用の向上のため「社内通報制度規程」に基づく「企業倫理相談窓口」を設けています。この規程では、通報者の秘密の厳守、被通報者の反論の機会、通報者に不利益な処遇がなされないことなどを定めています。

さらに2008年から外部通報窓口も設置し、匿名で通報

できるようにするなど通報環境を整えました。

2010年度CSR意識調査では、約75%の従業員が企業倫理相談窓口を知っていると回答し、また「企業倫理相談窓口を利用しますか?」の問いで、利用しない18%、わからない47%とあり、その理由として第1位は「そのときの案件による」であり、第2位が「秘密厳守が保たれるか不安がある」でした。この結果を踏まえ、今後も継続して相談窓口の周知、信頼性を高めるための努力を行ってまいります。

TOPICS

CSR意識調査

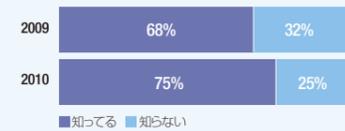
シチズングループでは、CSRや企業倫理に関する認知状況を把握するために、事業会社の従業員(派遣社員含む)を対象にCSR意識調査を毎年行っています。

【回答者数】2009年度: 6605/9031名(回答率73.1%)
2010年度: 6651/8677名(回答率76.7%)

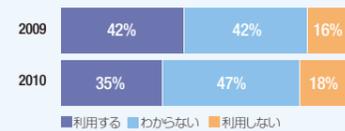
Q.1 CSRに取り組むことによってあなたの遵法精神が高まったと思いますか?



Q.2 あなたは企業倫理相談窓口を知っていますか?



Q.3 法令違反を見つけた場合、企業倫理相談窓口に通報しますか?



リスクマネジメントの基本的な考え方

シチズングループでは、企業理念の実現、経営計画を達成する上で阻害要因となるリスクを適切に管理し、シチズングループとしての社会的責任を果たし、かつシチズングループの持続可能な企業価値の向上に資することを目的として、リスクマネジメントに取り組んでいます。

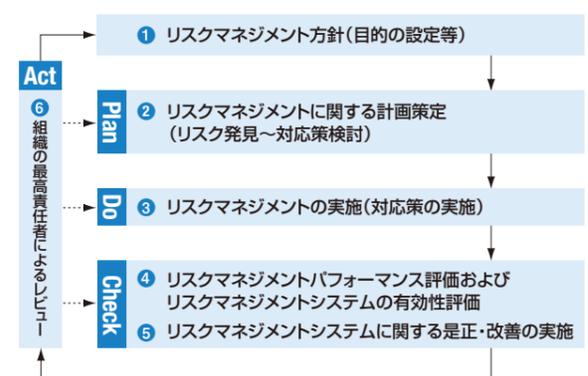
グループを取り巻くリスクを「経営戦略リスク」と「業務リスク」に分類し「経営戦略リスク」は経営会議、事業統括経営会議で取り扱い、「業務リスク」は、グループ全社で組織的に取り組んでいます。

リスクマネジメントの推進

シチズングループでは、「グループ業務リスクマネジメント基本規程」を制定しています。実行部門のグループCSR推進委員会はグループ各社の業務リスクを把握し、リスク対応を関連会社単位で行うか、グループを網羅する委員会等で行うかを判断し、CSR委員会に提案します。グループCSR推進委員会から提案されたリスクはCSR委員会で審議され、リスク対応のためのリソースをグループ全体で調整し、必要に応じてグループ経営会議に提案を行います。

2010年度は、主に事業会社各社でリスク分析を行い、評価し、2011年度に向けて各社独自の展開を検討しました。またシチズングループ全体として優先度の高いリスクとして挙げられる災害BCP(事業継続計画)については各社が取り組みを開始し、さらに共通課題を整理しながら推進していきます。営業秘密管理についても2011年度からグループ全体としての取り組みを開始していきます。

リスクマネジメントプロセスの基本



海外でのリスクマネジメント

海外でのリスクマネジメント実施にあたっては、事業統括会社が主管で進めることが基本となりますが、2010年度は中国地域の状況を把握し課題を整理するところから進めています。中国地域に関しては、各種法令・制度改正、労務問題を抱えた人事政策等のリスク対応課題がありますが、経営戦略的な要素もあり、業務リスク対応としては①中国拠点の情報収集・共有の仕組み(情報希薄によるリスク)②緊急事態時の対応の仕組み(緊急時の対応遅延によるリスク)③日本側の本部・本社機能としての必要最低限の日常管理の仕組み(情報混乱のリスク)を関係部署と共有して推進しています。

事業継続計画(BCP)

グループ各社のリスク評価により、優先度の高いリスクとして挙げられた自然災害BCPに取り組んでいます。

自然災害BCPは各社の事情(地域性、事業規模・形態)によって取り組む内容は異なるため、各社ごとに適した計画を検討し取り組みを開始しました。各社で取り組むなかで、経営資源の効率上グループ各社単独で取り組むのは難しい内容については、グループの共通課題として対応の方向性を検討しています。

自然災害BCPの重点施策としては、①指揮命令系統の明確化、②本社等重要拠点の機能の明確化、③対外的な情報発信、④情報システムのバックアップ、⑤製品、サービスの供給関係が挙げられます。それぞれの内容についてはグループ各社の優先度に沿った展開を図っています。取り組みの重点課題としては、災害時の人命の安全確保と安否確認を優先して進めています。

2011年3月に発生した震災にあたっては、従業員および家族の安否確認に手間取ったことなどの反省をふまえ、グループ全体の従業員および家族の安否を早期に把握・確認し、迅速な指示ができる「安否確認システム」を導入しました。